

登校を渋る 外国籍中学生への支援

背景や要因
経済的困窮
外国籍

1 気になる状況

相談内容

中学1年生男子（外国籍）
不登校

経緯と現状

本人が小学5年生の時に来日した。両親は、本人より一年前に来日している。本人は日本語での会話は少しできるが、両親は苦手である。父親は、三ヶ月前に職場を解雇されてしまい経済的に余裕がない。中学校入学後、しばらくは登校できていたが、二学期から登校を渋るようになる。本人は、学習についていけないことを口にする。両親は、「子どもが学校に行きたがらないので」と言っているが、親の外出中、弟妹の面倒や家の片付け等を行ってくれるので助かるという思いがある。

学校

SSWrを
要請

SSWr

- 相談の詳細を確認するため学校を訪問し、担任や日本語教室担当教諭から情報収集を行った。
- 外国籍家庭への経済支援策として、どのようなことが可能であるか、関係機関の担当者から情報収集を行った。その際に、今後開催予定のケース会議に出席してもらえるよう要請した。

SSWr

学校にケース会議開催を提案

- 参加者の選定や連絡・調整について助言
- 会議にも参加し、支援策について助言

2 ケース会議

アセスメント（課題の背景や要因の見立て）

本人について (生育歴、学校や家庭での様子など)	家族について (保護者・兄弟姉妹等の状況など)	その他 (経済状況、地域社会との関係、家庭の様子など)
<ul style="list-style-type: none"> ● 両親の来日の約一年後に、本人と弟妹で来日し、小学5年生の二学期から編入した。それまでは、母国で祖父と生活していた。 ● 日本語教室に通級することにより、少しずつ会話ができるようになった。小学校では欠席することなく登校していた。 ● 中学校に入学し、学習の遅れが見られ登校を渋るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 父親は職場を解雇されたが、仕事を探そうとしていない。 ● 母親は無職である。 ● 小学生の弟も不登校傾向がある。 ● 両親が外出してしまう時は、本人が弟妹の面倒をみている。 ● 両親は、公共機関等の様々な手続きの際に本人を通訳とするため、学校を休ませてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 父親の失業保険、児童手当のみで生活している。 ● 金銭感覚に乏しく、収入があると無計画に使う。 ● 近隣に在住する同じ母国の家庭数軒とは、コミュニケーションがあるものの、地域との接点はあまりない。

考えられる背景要因

- 外国籍のため生活習慣、教育観（毎日登校することや規則が厳しい等）の違いがあると考えられる。
- 経済的な困窮から、学校経費、特に部活動の活動費の負担があると考えられる。

現在行っている学校の対応

- 学年主任、担任 …… 日本語教室担当教諭とともに定期的（週1回程度）な家庭訪問を実施している。
- 日本語教室担当教諭 …… 日本語教室の環境整備を行っている。

プランニング①（課題解決に向けた目標の設定）

長期的な目標

- 本人、弟が継続的な登校ができる。
- 学習の意義を理解し、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 家庭の安定的な収入が図れるような支援体制を構築し、本人や弟が落ち着いた生活を送ることができる。

短期的な目標

- 定期的に日本語教室に通級できる。
- 国際交流協会が行っている行事等に参加し、日本の生活や文化について理解することができる。

家庭の状況を把握するとともに、関係機関から外国籍家庭に対する支援について詳しく伺いました。その結果、福祉部局では、家賃の補助や一定期間の貸し付けがあることや、国際交流協会では、費用のかからない交流事業や日本語研修会があることが分かりました。また、弟にも不登校傾向があったことから、小学校と連携した支援を行っていただきました。

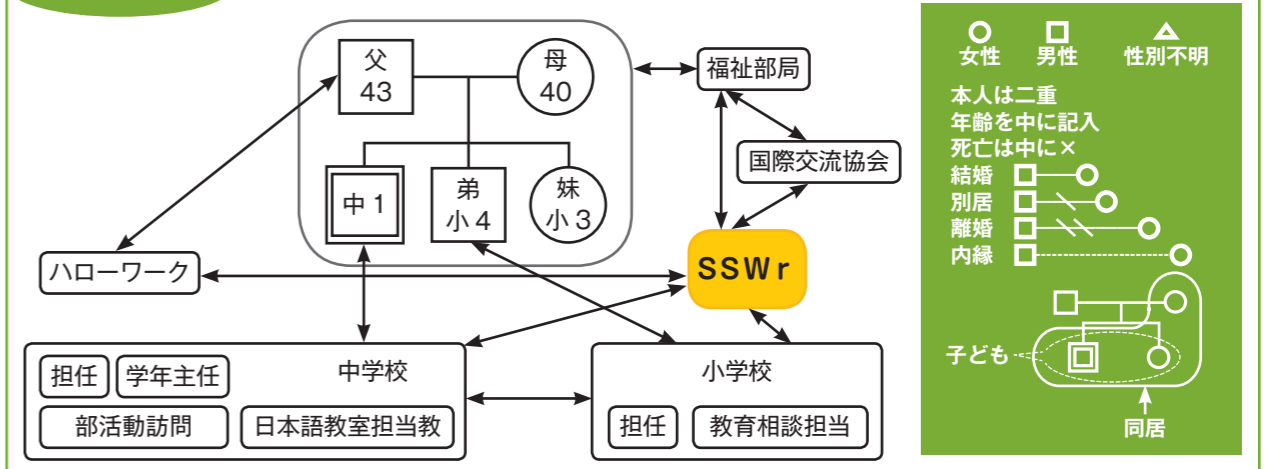
家庭を関係機関につないだことで、両親は、日本で生活する際の留意点や日本の教育制度についての説明を受け、子どもたちの将来のためにも学校教育が必要であることを理解していただきました。また、学校には、日本語教育や教科指導などの指導體制の見直しを図っていただきました。

今後も、教育や、学校・地域とのコミュニケーションが大切であるということをお伝えしていきたいと思っています。



SSWr

エコマップ



プランニング② (具体的な手立てと役割分担の決定)

担任・学年主任

- 学年や学級全体の受け入れ体制を整備し、「居場所」を確保する。
- 定期的な家庭訪問を行い、本人や保護者との関係を断ち切らないようにし、学校の思いを伝える。

日本語教室担当教諭

- 母国の掲示物や日本語学習教材の充実を図る。
- 国際交流協会に、担任と保護者が面談する時などに、通訳として同席してもらうよう依頼する。

部活動顧問

- 道具等の貸し出し、部活動費の負担を軽減するなど安心して活動できる体制をつくる。

SSWr

- 関係機関からどのような経済的支援が可能か情報収集し、両親や学校に情報提供する。
- 父親の就労の支援ができるように、ハローワークに同行する。

福祉部局・国際交流協会

- 安定した生活が送れるよう家賃の補助や貸し付け等について説明する。
- 交流事業や語学研修について説明する。

3 その後の状況

- 学校では、日本語教育や教科指導の充実を図るとともに、異文化理解の取り組みを進ませ、掲示物の工夫や言語活動を意識するなど、受け入れ体制を整えた。その結果、本人も登校できるようになり、さらに部活動にも積極的に参加するようになった。

- 父親は仕事を見つけようとSSWrとともにハローワークに通うようになった。また、母親も弟妹の面倒を見るようになった。

- 子どもたちが日本で生活していくためにも、教育を受けさせる必要があることを、担任や福祉部局担当者から繰り返し説明した結果、両親が子どもたちに登校を促す様子が見えやすくなった。

- 家族で国際交流協会主催の日本語研修会や交流行事に参加するようになり、周囲とコミュニケーションを図れるようになった。